

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽 2階		
所在地	愛知県名古屋市区六軒家1022番地		
自己評価作成日	令和 5年 10月 11日	評価結果市町村受理日	令和6年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy-osvoCd=2371100666-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy-osvoCd=2371100666-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和5年12月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設20年目を迎え、地域の方々に施設の存在を認識していただけるようになってきた。職員の離職も少なく、職員同士のみならず、地域の方々にも顔見知りとなれるよう施設が存在できるようになってきている。  
 共用型デイサービスを開設し、認知症利用者の在宅支援にも力を入れている。また、施設の周りは田んぼや畑が広がる環境で、利用者の皆様も散歩などで景色の移り変わりを楽しみながら生活することができている。玄関先や屋上に出るだけでも季節を感じ、快適に暮らす事を目標にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	1階玄関に掲げてあるのでたまに見るようにして実践につなげているとの意見があったが、ほとんどの人が理念を理解していないのではないかとの意見もあった。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は交流があったが、コロナ禍で交流が少なくなった。散歩やゴミ出しなど道で地域の方に会うと挨拶を交わしている。今年の秋祭りから地域の方の参加を呼びかける予定で、今後地域との交流が増えてくることを期待する。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の影響もありますが、地域の方々に活かす機会がありませんでした。地域の人々ともっと自由に交流ができるともっと理解が深まると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議によって外部の意見が聞け、サービス向上につなげていきたいとの意見と、運営推進会議の内容が職員会議で報告があるが、介護職員は直接関わらないのであまりわからないとの意見があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所担当者と管理者・ケアマネが日頃から協力関係を築けるよう連絡を取り合っている。介護職員は直接関わっていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内で研修を行っている。どういことが拘束になるのか、スタッフ内で確認しながら防止に努めている。拘束はしないのが原則なのですが、危険がある場合会議で話し合い、記録をとり家族の了承をもらいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について研修を受け、利用者に異変があればスタッフ内で情報交換をし防止に努めている。常に平常心を保つようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見人制度や日常生活自立支援事業を職員が理解していない人が多いように感じる。定期的に研修で学びたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族の方には十分に説明を行い、不安や疑問が生じた場合も納得して頂けるよう説明をします。契約は管理やケアマネが行う。契約に立ち会っていないので分からなが、十分説明を行っていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍の影響で家族の方と接する機会がほとんどないとの意見と、日々利用者から意見要望をくみ取れる関係を築けるよう努力し、家族からも意見要望があれば代表者や管理者や職員で話し合うとの意見があった。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面接等で意見を言う機会があります。反映に関しては、職員の意見を真摯に受け止め考えられていると思います。運営に関する事はほとんど話はでない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の希望の労働時間や条件を聞き入れ、資格をとる援助をしている。職員全員に役割分担をし個々にやりがいをもち公平に努めている。給与水準が低くやりがいは無いとの意見もあった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員全員がオンライン研修を年2回受けている。又資格を取ることを推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	以前は研修などで知り合う機会があったが、コロナ禍以降研修に参加もなく交流する場もない。同業者との交流は、施設により対応の違いがあり勉強になっていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の情報を共有し、周りの利用者とのよい関係をもてるよう配慮し、要望を言いやすい関係性になれるよう努めている。 入所してしばらくは特に不安があるので、不安を和らげる会話と傾聴に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	介護職員は直接家族と関わらないが、管理者やケアマネから利用者と家族の関係を聞き要望や対応の仕方を考えている。 職員は家族と面識がないので初期段階では難しい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	認知症であるご本人からお話しが聞けない場合もありますが、家族・本人の思いを受け止め必要としている支援を見極めるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員利用者がお互い助け合いながら、利用者の出来る作業を一緒に行う。日々の会話から学ぶことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月新聞を作成したり写真や動画をHPにあげて利用者の様子を伝えている。面会の場所も設けている。利用者の必要なものや要望があればお伝えして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍前は友人が訪ねてきたこともあった。 現状では玄関先での面会が可能。 本人の希望により電話も可能。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の性格を考慮し、利用者同士気が合う人に並んでもらえるようテーブルの配置を考えたり、それぞれが出来ること出来ない事を分かってもらえるよう声掛けをしてよい関係を作ってもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退っされた利用者のその後が以前より伝わらなくなった。個人情報の問題なのか。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当スタッフが利用者の希望や意向の把握に努め、目標を立ててスタッフ会議で話しあっています。また施設計画書を作成する際も本人の意に添えるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアマネからの情報を元に、利用者の出身地・家族・仕事・性格や趣味、既往歴や施設に入所する前の生活ぶりなどを把握する。また本人からもお聞きする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人記録や受診記録に日々目を通し、職員間で情報を共有している。日々の観察を怠らないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員はミーティングなどで現状の課題やケアのあり方について意見を出し合う。ケアマネや管理者が家族に相談しながら目標をもって計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員は日々の様子や気づきを介護記録に記入し情報を共有している。記録は面倒でもあった事を直に記録するよう努めているが、人によって記録の記入が不十分に感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟性・臨機応変さは大事だと思って支援に努めている。 デイサービスでの支援が始まったが今後もこのまま継続していけたらと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で地域との交流は十分でない。畑で収穫してもらったり、近所を散歩したりと季節を感じてもらえるよう努めている。田舎での環境が穏やかな日常を送れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科、歯医者、皮膚科は定期的な往診を受けている。急変時は24時間体制で指示を仰げる。本人や家族の希望があれば病院に受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は利用者の状態や変化を日々記録し看護職員と情報を共有している。利用者の健康状態に変化があれば看護職員に連絡をとり指示をもらい、すぐに対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やケアマネや看護師が、利用者が入院した際には病院関係者と情報交換や相談に努めていると思う。職員は直接関わりがないが、情報は共有してる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設で出来ること、できない事を十分説明し、利用者や家族の意に添えるよう出来るだけの支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命救急講習や内部研修を受けたが、いざとなったときに行動に移せるか不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を利用者とともにを行い、避難方法や経路を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	それぞれの性格を理解し言葉を選んで、伝え方にも気を付けてもいるがとても難しい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活での会話の中で本人の思いをくみ取り、自己決定できるよう働きかけをしている。普段の役割やレクなども押しつけないよう本人の意見を尊重する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴時間や過ごす場所など出来る範囲で希望に添える様努めているが、職員の都合になってしまっていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服を選んでもらったり、髪型や服装の好みを聞き出しできる範囲で希望に添える様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人一人の食事の好みや量、持病や咀嚼に合わせて味付けや盛り付けを考えている。台ふき、食器拭きなど役割を決めてやってもらっている。日陽の畑の収穫をしたり、季節の食材を味わってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量をチェックして記録をとり、カロリー不足や水分不足にならないよう支援している。また一人一人に合った量や柔らかさ味付けを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医の往診による定期健診を毎年行い、必要な方には毎週の往診でケアを行っている。食後は職員が付き添い口腔ケアをし、仕上げ磨き等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の記録を残して排泄のパターンの把握に努めている。オムツ・パットを使った方が職員の負担が減るが、頑張っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の回数を把握し水分摂取量に注意したり、適度な運動をしてもらったりしているが、現状は薬に頼っている面が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	利用者の状況を見ながら支援しています。現状スタッフの都合で入浴時間を決めてしまうことも多々あります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息をしっかりしておらう為希望する利用者には居室で休んでもらっている。ベッド周りも整えて心地よく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診の記録や薬の説明等を読んで理解するように努めていますが、薬の種類が多すぎて覚えきれていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクや体操やイベントも大切だが、日々の何気ない会話がとても大事だと感じて支援している。もっと会話を増やすようにしたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出ができず、戸外の散歩ぐらいだった。少しずつ出かけられるようになってきたので利用者の希望を聞き、企画をしたい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理は難しいので現金は事務所で預かっていますが、自分で管理できる方には所持してもらい必要に応じて使ってもらっています。紛失したなどのトラブルもあり、個人でのお金の所持は否定的な職員もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している利用者もみえ、携帯電話の操作についても支援している。家族や友人に連絡を取りたい希望があれば、電話ができる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった花飾りを作って壁に貼り季節感あふれ落ち着く空間作りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者同志の関係性を把握し、テーブル席の配置を配慮している。ソファでくつろげる場所や独りになりたいときには居室で過ごしてもらうなど支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれの居室で使う、慣れたものや好みものを持ってきて頂き、足りないものは施設のものを提供し、使用しやすいよう配置を考え過ごしやすよう工夫している。中には仏壇を持って来る方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		